

職員の連携が取りやすくなり、
ケアの質の向上に繋がっています

従業員が、
自分たちの時間に、
余裕をもてるように



I N D E X

1. 医療・介護現場は課題がたくさん
2. そんなあなたの現場の課題を解決
3. 医療・介護業界の情報連携に必要な機能がBuddycom 1つで
4. お客様導入事例
5. IoTとの連携 - 見守りセンサー
6. 介護業界向け導入支援事業費補助金について
7. 無料トライアルで実際に使ってみよう
8. 会社概要

1. 医療・介護現場は課題がたくさん

連絡ツールに限界を感じる

- ・ PHSや内線での連絡だと全員に共有するまで時間がかかる
- ・ 集合形式の申し送りでは共有漏れがある度に、ステーションを往来して**非効率**
- ・ そもそも**連絡ツールがなく**大声で呼ぶ、フロアを走る等している



情報共有が非効率

- ・ 離れた場所にいるスタッフ同士で情報共有ができない
- ・ 伝えたいことがある度に**携帯電話やスマホを取り出す必要**がある
- ・ 重要な情報は紙や付箋などにメモして残している など



バディコムを導入すると・・・



クリアな音声で世界中どこでも

- ・ LTE回線やWi-Fiを使用するので**距離関係なく使える**
- ・ 複数人に一斉に連絡できるので、わざわざ集合しなくても**その場で情報共有**ができる
- ・ スマホで使えるので専用機との**2台持ちの必要なし**

情報共有がスムーズに

- ・ グループ通話を利用し、現場全員に知らせることが可能
- ・ 周辺機器を使用することでスマホに触らず**ハンズフリーで話せる**
- ・ **通話内容がテキスト化 & 自動保存される**ので後から確認可能



Buddycomを使えば、医療・介護現場の課題を全て解決

これまで

- 1対1の連絡手段ではスタッフとスムーズに連絡が取れない
- 無線機では施設外のスタッフと連絡がとれない
- 作業中だと指示や連絡を聞き逃してしまうことがある
- 電話やPHSの1対1の連絡だと伝言ゲームになり、周知に時間がかかったり内容に齟齬が生じたりした



これから

- 複数人に一斉連絡ができるので情報共有のスピードが大幅に向上
- 施設の内外関わらず常にコミュニケーションが取れる安心感に繋がる
- 話した内容がテキスト化される&音声が残るので後で内容を確認することができる

4G、5G、Wi-Fiなどのインターネット回線を使用し、リアルタイムなチームコミュニケーションが可能です。
電話や無線機、インカムに代わるシステムとして、現場のDX化を促進します。

【電話使用時】の従来の課題が解決！

課題1

1:1でしか会話できず、
チームで情報を共有する
場合不便



課題2

スマホの電話帳を開き電
話かける必要があり、
時間がかかる



課題3

通話データが残らず、あ
とから確認・二次利用で
きない



グループ通話

現場スタッフと管理する側の情報の共有
がスムーズにできます。相手の終話を待
たずに発信できます。



一瞬で会話開始

イヤホンマイクやスピーカマイクを使って
一瞬で会話開始。会員登録や音声認識で会
話できるモードもあり。



会話は自動保存

通話内容はテキスト化し自動保存。あと
から簡単に確認でき、ダウンロードもで
きます。2次利用可能。

【トランシーバー、インカム使用時】の従来の課題が解決!

課題1

広範囲で会話できる専用機は**価格が高く**結局電話と二台持ち



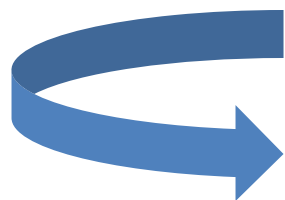
課題2

通信距離の制限があり、**近い距離**しか通話が届かない



課題3

グループ数に制限があり、**混信、盗聴**のリスクがある



低コスト

スマートフォンに無線機能を集約できるので専用機が不要になり、専用機のコストを削減することができます。



世界中で話せる

インターネット通信(4G,5G,Wi-Fi)を使用するため、インターネットが繋がるエリアであれば距離を気にせずどこでも通話できます。

SCALLABLE



大規模な運用

グループ数無制限、ユーザー数も無制限(検証は1グループあたり2,000ユーザー)の大規模運用に対応しています。



高セキュリティ

通信、データの暗号化によって通話を守っています。さらに高セキュリティなエンドツーエンド暗号化機能も提供可能です。

Buddycomが医療・介護現場で必要とされる理由

かんたん

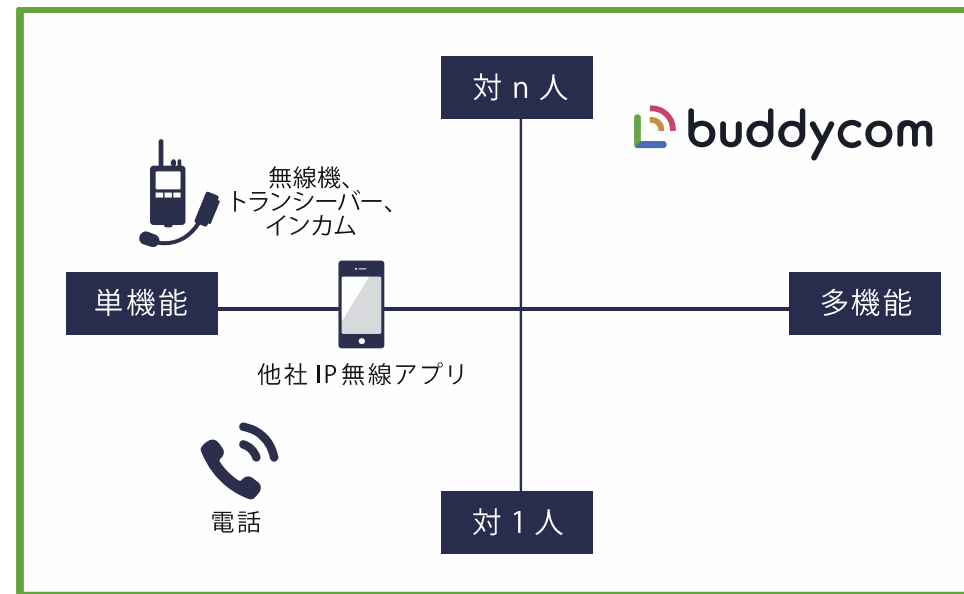
国籍、人種、
年齢に関わらず、
誰でも使える

速い

刻々と変わる
状況に対応した
情報共有のスピード

間違わない

操作ミスや想定外の
動きが起こらない

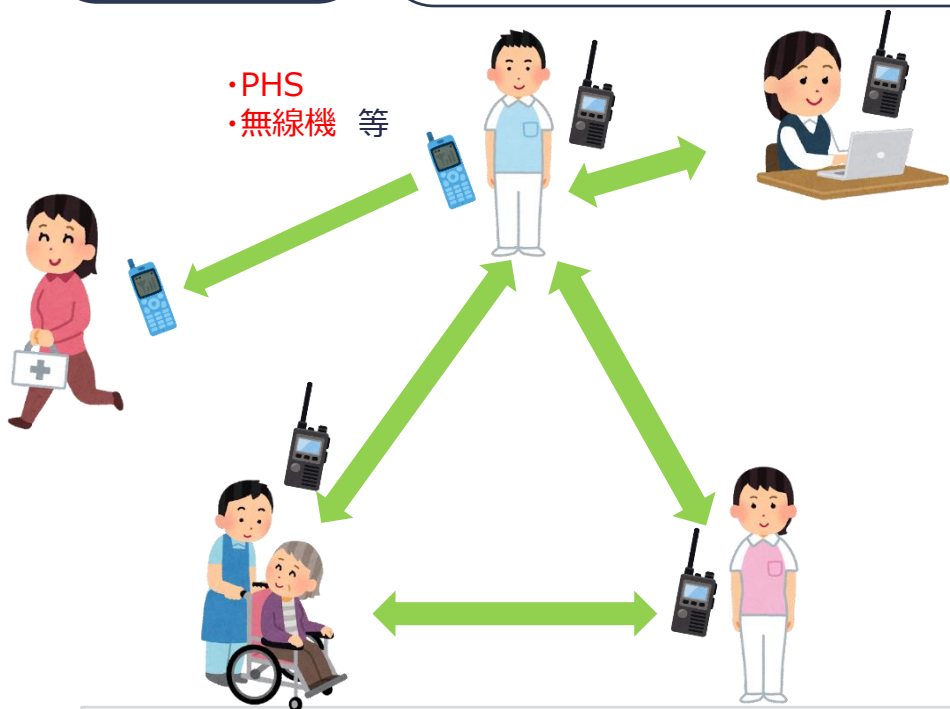


2. そんなあなたの現場の課題を解決

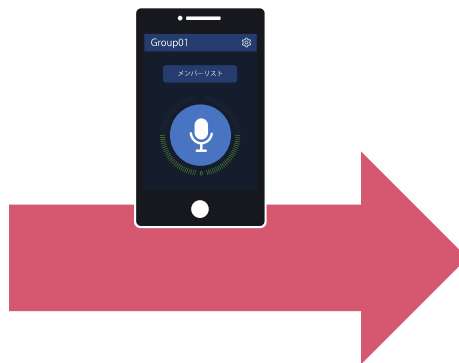
バディコムの 利用シーン

- 申し送りなど、重要な連絡事項を一斉に全員に即時共有
- 食事や入浴など、複数スタッフ間での連携が必要な業務でリアルタイムに状況を共有
- 発話ボタンを押せばすぐに誰かに質問・相談ができるので、業務中の不安が軽減される

・PHS
・無線機 等



バディコムは
導入カンタン♪



ボタンを押すだけでかんたんに会話できるので、どんな年代の方でもすぐに使い始められます！

音声通話



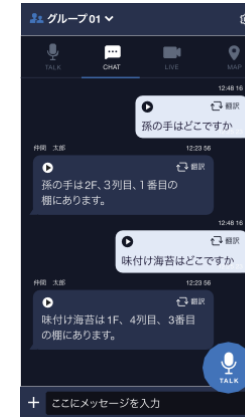
● グループ通話、双方向通話、マルチグループ受信

- ・ボタンを押すだけでグループのユーザーへ一斉に発信できます。
- ・無線機と違い、相手の終話を待たずに発信できる双方向での通話も可能です。
- ・複数グループの会話を受信することもできます。

● メリット

話すまでのステップが少ないので、不明点や確認したいことがすぐに誰かに聞けるため、現場で働く方の不安が軽減されます。

チャット



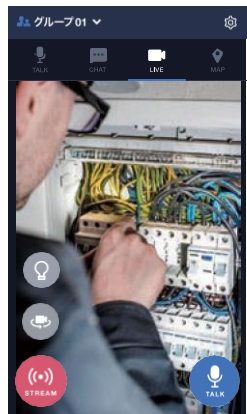
● 音声テキスト化、履歴再生、定型文、翻訳

- ・話した内容が即座にテキスト化されます。
- ・話した内容は自動で保存されるため、後から再生できます。
- ・定型文を10個まで作成できるので、定期的なアナウンスなどに便利です。
- ・複数言語への同時翻訳ができるため、多国籍な現場でも通訳を介さず情報共有できます。

● メリット

聞き逃したことを後から何度でも確認できます。多国籍な現場でも円滑なコミュニケーションを実現します。

ライブキャスト(映像共有)



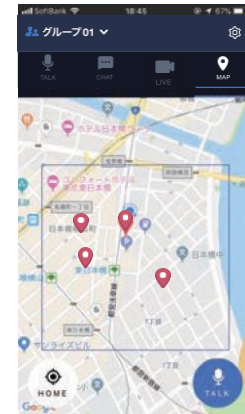
● 映像共有+音声通話

- ・現場の状況をライブ映像で共有しながら会話ができます。
- ・高画質な映像を低遅延で複数人と共有できるので、現場の遠隔支援に活用できます。

● メリット

音声や画像だけでは伝えにくい情報でも、映像を見せながら会話することで、正確な情報共有を実現します。

MAP 通話



● 位置の確認、範囲通話

- ・ユーザーの位置情報の確認ができます。
- ・MAP上にいるユーザーのうち、枠で囲ったユーザーだけに発話することができます。

● メリット

緊急時に現場に近いユーザーとのみ話したい、同じエリア内で情報を共有し、連携を図りたいといったニーズに応えます。

エンドツーエンド暗号化(E2EE)



● 機能

1つのデバイス（たとえばスマートフォンやPC）でメッセージを暗号化し、送信先のデバイスでしか復号できないようにする技術。音声・チャット・映像・位置情報のE2EE対応を実現しております。

● メリット

万が一、通信やサーバーでの傍受がされても、解読できないため、機密性の高い現場でも安心して利用することができます。

ディザスタリカバリー対応



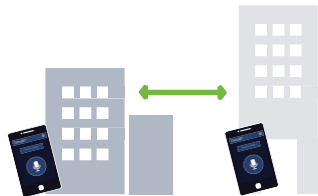
● 機能

サーバーは日本だけではなく、アジア、ヨーロッパ、北米の4リージョンの構成で同時稼働しております。障害発生時は自動で切り替え、24時間365日のサービス提供を確実なものとしております。

● メリット

災害などの発生時にも利用することができるため、ミッションクリティカルな現場でも利用することができます。

企業間通信



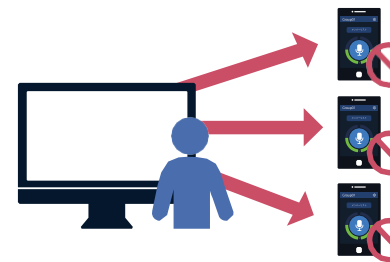
● 機能

契約が異なる企業のユーザー同士でも、1つのグループを作成し、グループコミュニケーションが図れる独自サービスです。

● メリット

同じ現場で働いている別会社、現場と本社でのコミュニケーションができます。また予実管理の都合上、部署ごとに分けて契約を行った場合でも、異なる契約ユーザー同士でコミュニケーションができます。

アプリ設定の一括管理・機能制限



● 機能

管理コンソールでスマホアプリの設定や機能を一括管理できます。ユーザーの予期せぬ操作、設定変更も防止できます。

● メリット

たくさんのユーザー数でも、簡単な管理を可能とし、社内統制の徹底ができます。

3. 医療・介護現場の情報連携に必要な機能がBuddycom1つで

簡単



初期費用



導入コスト



スマホがあれば初期費用もかからず、アプリをインストールするだけで簡単に利用開始。シンプル操作で導入コストもかかりません。

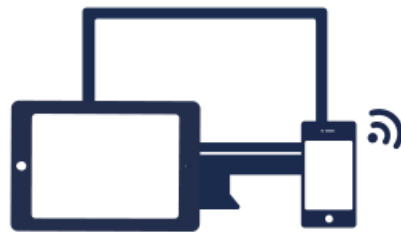
アクセサリ（周辺機器）を利用すれば、ハンズフリーで通話できます。

必要な構成

iOS Android



Buddycomアプリ



スマホ/タブレット/PC





データ通信/Wi-Fi

+



周辺機器（オプション）

医療・介護現場のニーズに合わせて、様々なアクセサリーの仕入・販売を行っております

有線	 <p>MKI-P1</p> <p>MKI-P2S1</p>
無線	 <p>Jabra Perform 45</p> <p>MKI-P3</p> <p>SE-V300</p>

■ 周辺機器の使い方

- コードのないヘッドセット型や耳に負担の少ないイヤホンマイク型などから選べます
- 通話ボタンを押している間だけ発話対応
- イヤホンマイク型はイヤホン部分を取り外せるので個人ごとの利用が可能で衛生的

[全ての周辺機器を見る](#)

ベーシックな屋内向けの有線イヤホンマイクを始めとし、製造・建設業では防水・防塵、ノイズキャンセラーが備わった屋外向けの無線スピーカーマイク、ハンズフリーで Livecast（映像配信）機能を使いたい現場ではスマートグラスと言ったように、様々な現場のニーズに合わせて、多種多様なアクセサリーを取り扱っております。

4. お客様活用事例

今ある未来の、その先へ。



TSUKUI

株式会社ツクイ

導入事例を見る

「記録システムとBuddycomの併用で、介護スタッフ1人あたり月間15～20時間の効率化を実現、お客様サービスの質が向上」

端末:iPhone

使用機能:グループ通話、個別通話、通話履歴の再生

導入前の課題

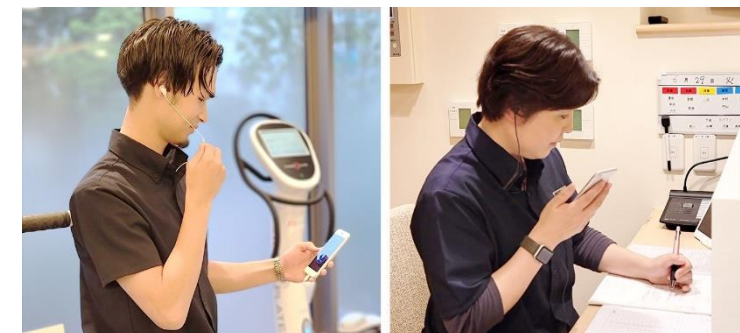
従来はPHSや内線を利用していた連絡や集合形式での情報共有が主な手段でしたが、各スタッフへの伝達には遅延があり、漏れを防ぐために付箋やメモへの転記、内容確認のためにスタッフはステーションと往來するといった非効率な動線、そして適時性に欠けるという問題があった。

利用シーン

- お客様の入浴前などの再検査連絡（ナース→介護スタッフ）
- レストランやレクリエーション、お風呂など、お客様のご案内や移動介助の連絡
- 外出先からの連絡や確認
- スタッフの所在の確認 など

導入の効果

- 申し送りを文字だけでなく音声でも行うことにより細かいニュアンスも伝わるようになった
- 全員に一斉に連絡できるため、ケアに関わる重要な連絡等の伝達漏れや聞いた・聞いていないの確認が不要に
- ケア中、不安なことがあっても常に誰かと会話ができることでスタッフに疎外感を感じさせずスタッフの定着に繋がった



TARGET

医療

CASE STUDY

リハビリステーション病院様

導入前の課題

- ・既存の呼び出し用ツールの老朽化
- ・ナースコールは高価でインシヤルコストがかかる
- ・より安価で代替可能なソリューションを検討していた

導入後の運用

- ・病室の各ベッドにタブレットを設置。
- ・患者が画面のボタンを押すと、スタッフステーションと看護師に定型文で通知。
- ・スタッフステーションと看護師はBuddycomで通話を行い、対応者を決め、病室に直行する。



構成

端末: スマホ、タブレット
通信: sim



利用シーン

ナースコールの一部をBuddycomに置き換えることで費用を削減
Buddycomの定型文送信機能をBuddycom画面上のサブボタンに割り当てることで、
ナースコールと同様な使い方を安価で実現。



呼び出しボタン

センサーからの通知をBuddycomによって音声読み上げ、見逃しを防止

SOLUTION



ATTENTIVE CONNECT / Neos+Care

ベッドセンサーや赤外線距離センサーを利用して、入居者の状況や離床を検知するシステムです。



ATTENTIVE CONNECT 詳細

Neos+Care 詳細

with Buddycom

介護従事者の方の負担を軽減し、働きやすい環境へ



Buddycom with Things その他IoT連携も随時開発中

Buddycomは、人と人のコミュニケーションだけでなく、人（Human）と、あらゆる情報（Things）の、コミュニケーションを可能にします。



6.介護ロボット導入支援事業費補助金について

①地域医療介護総合確保基金を利用したICT導入支援事業

補助対象

- 介護ソフト : 記録、**情報共有**、請求業務で転記が不要であるもの、ケアプラン連携標準仕様を実装しているもの。
(標準仕様の対象サービス種別の場合。各仕様への対応に伴うアップデートも含む)
- 情報端末 : タブレット端末、スマートフォン端末、**インカム**※等 ※Buddycomはインカムアプリのため情報共有が可能なソフトに該当する可能性があります。
- 通信環境機器: Wi-Fiルーター等
- その他 : 運用経費(クラウド利用料、サポート費、研修費、他事業所からの照会対応経費、バックオフィスソフト(勤怠管理、シフト管理等)等

補助額

補助上限額	補助率
事業所規模(職員数)に応じて設定	一定要件 を満たす事業所は、
職員1人～10人 : 100万円	 を下限に、 都道府県の裁量により設定
職員11人～20人 : 160万円	それ以外の事業所は、
職員21人～30人 : 200万円	 を下限に都道府県の 裁量により設定
職員31人以上 : 260万円	

補助要件

- LIFEによる情報収集・フィードバックに協力
- 他事業所からの照会に対応
- 導入計画の作成、導入効果報告(2年間)
- IPAが実施する「SECURITY ACTION」の「★一つ星」または「★★二つ星」のいずれかを宣言等

【補助率が3/4となる要件】

- 事業所間でケアプランのデータ連携で負担軽減を実現
- LIFEの「CSV連携仕様」を実装した介護ソフトで実際にデータ登録を実施等
- ICT導入計画で文書量を半減
- ケアプランデータ連携システムの利用

本資料は厚生労働省が公表している「ICT導入支援事業の概要」の内容を基に作成しています。詳しくは介護現場におけるICTの利用促進 | 厚生労働省 (mhlw.go.jp) をご参照ください。各自治体によって助成金の申請期間や適用対象が異なる場合がございますので、詳細については必ず各都道府県の担当窓口にご確認ください。

②地域医療介護総合確保基金を利用した介護ロボットの導入支援

対象となる介護ロボット

移乗支援、移動支援、排泄支援、見守り、入浴支援などで利用する介護ロボット

- 移乗支援（装着型・非装着型）、入浴支援 **上限100万円** (1機器あたり)
- 上記以外（見守り等） **上限30万円** (1機器あたり)

見守りセンサーの導入に伴う通信環境整備	補助率
<ul style="list-style-type: none"> ● インカム ● Wi-Fi工事 <p>上限 750万円 (1事業所あたり)</p>	<p>一定要件*1を満たす事業所は、</p> <p>3/4 を下限に、都道府県の裁量により設定</p> <p>それ以外の事業所は、</p> <p>1/2 を下限に都道府県の裁量により設定</p>

※1一定要件：導入計画書において目標とする人員配置を明確にした上で、見守りセンサーやインカム、介護記録ソフト等の複数の機器を導入し、職員の負担軽減等を図りつつ、人員体制を効率化させた場合



インカム機器として、
Buddycomに必要な構成の一部が
補助金対象になる可能性があります

本資料は厚生労働省が公表している「[介護ロボット導入支援事業の概要](#)」の内容を基に作成しています。詳しくは[介護ロボットの開発・普及の促進 | 厚生労働省 \(mhlw.go.jp\)](#)をご参照ください。各自治体によって助成金の申請期間や適用対象が異なる場合がございますので、詳細については必ず各都道府県の担当窓口にご確認ください。

Buddycomを試してみませんか？

Buddycomは10ユーザーまで1ヶ月無料でトライアルができます。
実際に触ってみて、使い心地をお試ください。

無料トライアルを申し込む

トライアル費用は発生しません。
トライアル終了後は、解約等の操作は必要ありません。



お役立ち資料ダウンロード



The screenshot shows the Buddycom trial sign-up page. At the top is the Buddycom logo. Below it, the text asks 'Buddycomを試してみませんか?' (Would you like to try Buddycom?). It states '10ユーザーまで、1か月間無料で試せます。' (Up to 10 users, 1 month free trial). A note says 'メールアドレスを入力すると確認コードが届きますので、トライアル版の登録をしてください。' (When you enter your email address, you will receive a confirmation code, so please register for the trial version). There is an input field for 'メールアドレス' (Email address) and a 'Buddycomを始める' (Start Buddycom) button. A link '既に登録している方はこちら>' (Click here if you are already registered) is also present.

無料トライアル手順はこちら

8. 会社概要

会社名	株式会社サイエンスアーツ
所在地	東京都渋谷区渋谷1丁目2-5 MFPR渋谷ビル5F
代表者	代表取締役社長 平岡 秀一
設立	2003年9月19日
資本金	5,000万円



ミッション	世界中の人々を美しくつなげる
事業内容	デスクレスワーカー※をつなげるライブコミュニケーションプラットフォーム「Buddycom(バディコム)」の開発・販売
Buddycomリリース	2015年9月

※デスクレスワーカーとは机の前に座らない最前線で活躍する労働者のこと。
農業、教育、ヘルスケア、小売、ホスピタリティ、製造、輸送、建設などの産業に従事しております。



大手企業からSMBまで

600社を超えるお客様が導入中

ホームページを見る

無料トライアルをする

お問い合わせ

